

特集 2

令和6年度  
事例Ⅳ  
の研究  
開示得点データによる  
徹底分析

第1章

3事業を展開する企業の  
セールスマックスと設備投資

令和6年度試験の事例Ⅳは、経営分析、計算問題2問、記述問題と例年どおりの構成でした。経営分析の難易度は例年と比べてかなり低くなりました。計算問題ではセールスマックスと設備投資の経済性計算が出題されましたが、難易度は例年よりも低く、設備投資の経済性計算問題も、キャッシュフローの計算は工数が少ないことから、例年よりも高い正答率になったと思われます。

これらの影響もあり、令和6年度の実例Ⅳは、過去と比較して結果的に高得点者が多数見られました。後述しますが、令和7年度の実例Ⅳは相当程度難化することが予想されます。

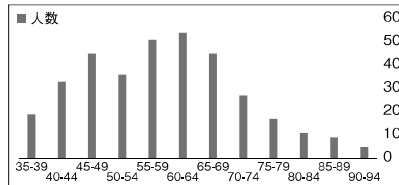
令和6年度の実例Ⅳの解答例と詳細な解説については、本誌2024年12月号の記事をご参照ください。本特集では、再現答案と一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会より通知される得点データを基に事例Ⅳの解答を徹底分析していきます。

なお、再現答案はEBA 中小企業診断士スクールが2024年10月29日～11月16日に実施した「令和6年度EBA 再現答案採点サービス」にご協力いただき、2025年1月21日～2月12日に科目ごとの得点データを回答いただいた352名分の再現答案および得点データを対象にしています。

1 開示得点データの分布

352名分の得点データの分布は、図表1のとおりです。最高点は94点、最低点は36点でした。

図表1 開示得点データの分布



事例Ⅳの得点	人数	割合
90～94点	5	1%
85～89点	9	3%
80～84点	11	3%
75～79点	17	5%
70～74点	27	8%
65～69点	45	13%
60～64点	54	15%
55～59点	51	14%
50～54点	36	10%
45～49点	45	13%
40～44点	33	9%
35～39点	19	5%
合計	352	100%

2 第1問(設問1): 経営分析

第1問(配点25点)  
(設問1)

D社および同業他社の財務諸表を用いて経営分析を行い、同業他社と比較してD社が優れていると考えられる財務指標を1つ、劣れていると考えられる財務指標を2つ取り上げ、それぞれについて、名称を(a)欄に、その値を(b)欄に記入せよ。解答にあたっては、①の欄に優れていると考えられる指標を、②、③の欄に劣れていると考えられる指標を記入すること。なお、(b)欄の値については、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示すること。また、(b)欄のカッコ内に単位を明記すること。

(1) 難易度の評価

与件文から、「主力事業の飲食事業では来店客数や客単価はコロナ禍以前の水準に達していない(売上高総利益率)」、「製品開発から生産、加工、販売に至る一貫体制構築(有形固定資産回転率)」、「一貫体制の構築・維持にはコストがかかり、財務的なリスクを高めている(負債比率)」といった財務指標を想定でき、かつ、実際の財務比率でも与件文を反映した数値となっているため、試行錯誤することなく処理できました。

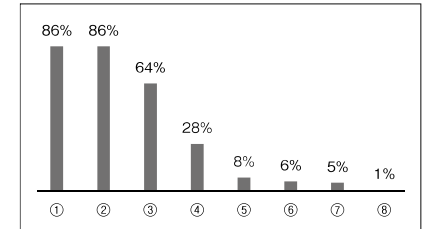
(2) データで見る第1問(設問1)

有形固定資産回転率、自己資本比率/負債比率、売上高総利益率/売上高売上原価率に集中していることがわかります(図表2)。

90～94点の解答割合は①～③すべてにおいて100%となっていることから、この3つの指標が正解だと判断できます。また、④売上高営業利益

率について、50点以上よりも50点未満のほうが解答割合が高くなっています。収益性については、③売上高総利益率よりも、④売上高営業利益率のほうが配点が低い可能性があります。

図表2 経営指標の選択割合



①	有形固定資産回転率	86%
②	自己資本比率/負債比率	86%
③	売上高総利益率/売上高売上原価率	64%
④	売上高営業利益率	28%
⑤	流動比率/当座比率	8%
⑥	棚卸資産回転率	6%
⑦	売上高経常利益率	5%
⑧	固定資産回転率	1%

3 第1問(設問2): 同業他社と比較

第1問(配点25点)  
(設問2)

D社の当期の財政状態および経営成績について、同業他社と比較した場合の特徴を80字以内で述べよ。

(1) 難易度の評価

(設問1)で選択した経営指標に対応する与件根拠が明確であり、それらを選択することは大して難しくなかったと思われます。

(2) データで見る第1問(設問2)

(設問2)は解答しやすかったこともあり、得